

危険の科学

歯ブラシ

による

事故



SAFE
K:DS
WORLDWIDE

JAPAN

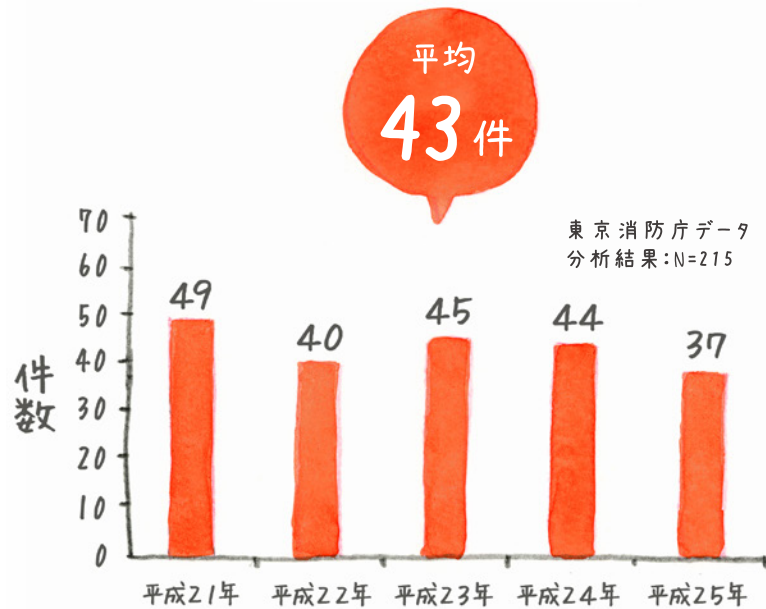
歯ブラシの事故

「子どもの歯みがき」には、思わぬ事故が潜んでいます

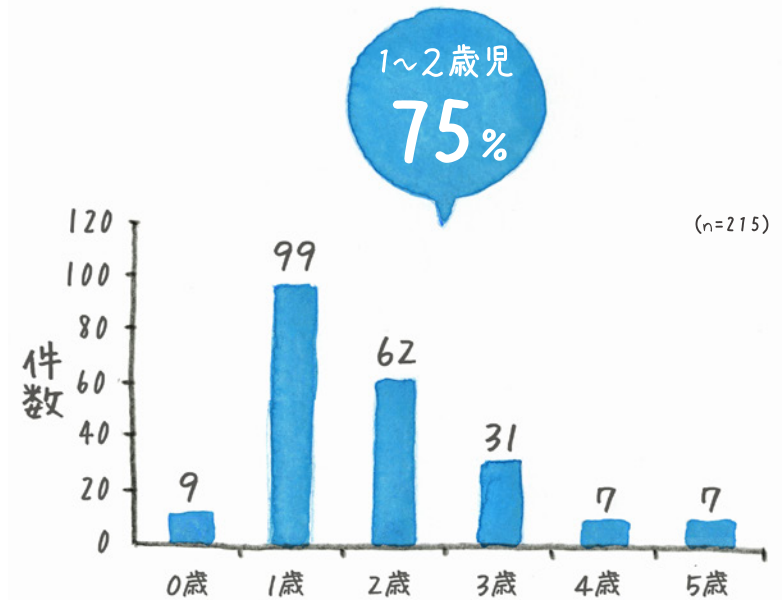
「歯みがき」は、大切な生活習慣ですが、実は、思わぬ危険が潜んでいます。東京消防庁によると、歯みがき中に歯ブラシで受傷する事故が年間で平均43件も起きていることが分かりました。

年齢別にみても、特に多いのは1〜2歳の子どもで、1歳児だけで全体の約半数、2歳児を含めるとおおよそ75%に上ります。では、実際どんな風に事故がおこっているか見てみましょう。

年間の事故件数



年齢別の事故件数



歯みがき中の事故

事例 歯磨き中の転落事故



4歳（男）の子どもが母親の後ろを追って居間に移動し、1人掛けソファの袖の部分（高さ50cm）に立って歯ブラシをくわえていた。

泣き声で母が振り向くと、歯ブラシを口にくわえたまま、フローリングの床にうつぶせになっていた。

仰向けにしたところ、歯ブラシの柄の部分が口から見え、児は唸っていた。



①
ソファに立って
歯ブラシを
くわえていた



②
転落して、
フローリングの床に
うつぶせ状態に



③
上咽頭に
歯ブラシが刺さる

上咽頭から摘出された
歯ブラシの先端部（約2.5cm）と
歯ブラシの柄



歯みがき中の事故

事例 歯磨き中の衝突事故



患児（1歳9か月）が歯ブラシをくわえたまま駆け寄ってきて、母親の背中に勢いよく抱きついた。

泣いて痛がる患児の口腔内をみると、歯ブラシの先端が右頬粘膜に刺さっていた。

歯ブラシを抜去したところ、出血は少なかったが、創部から組織が溢れ出してきて大きくなった。



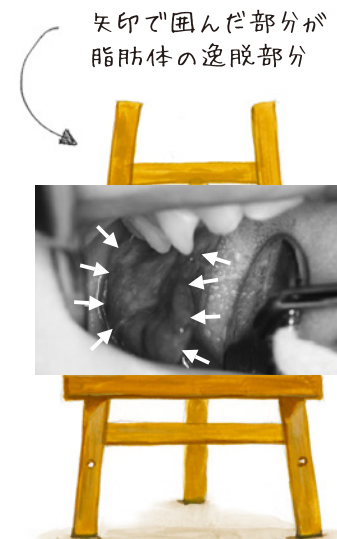
①
歯ブラシをくわえたまま
駆け寄ってきた



②
母親の背中に
勢いよく抱きついた



③
歯ブラシの先端が
右頬粘膜に
刺さっていた

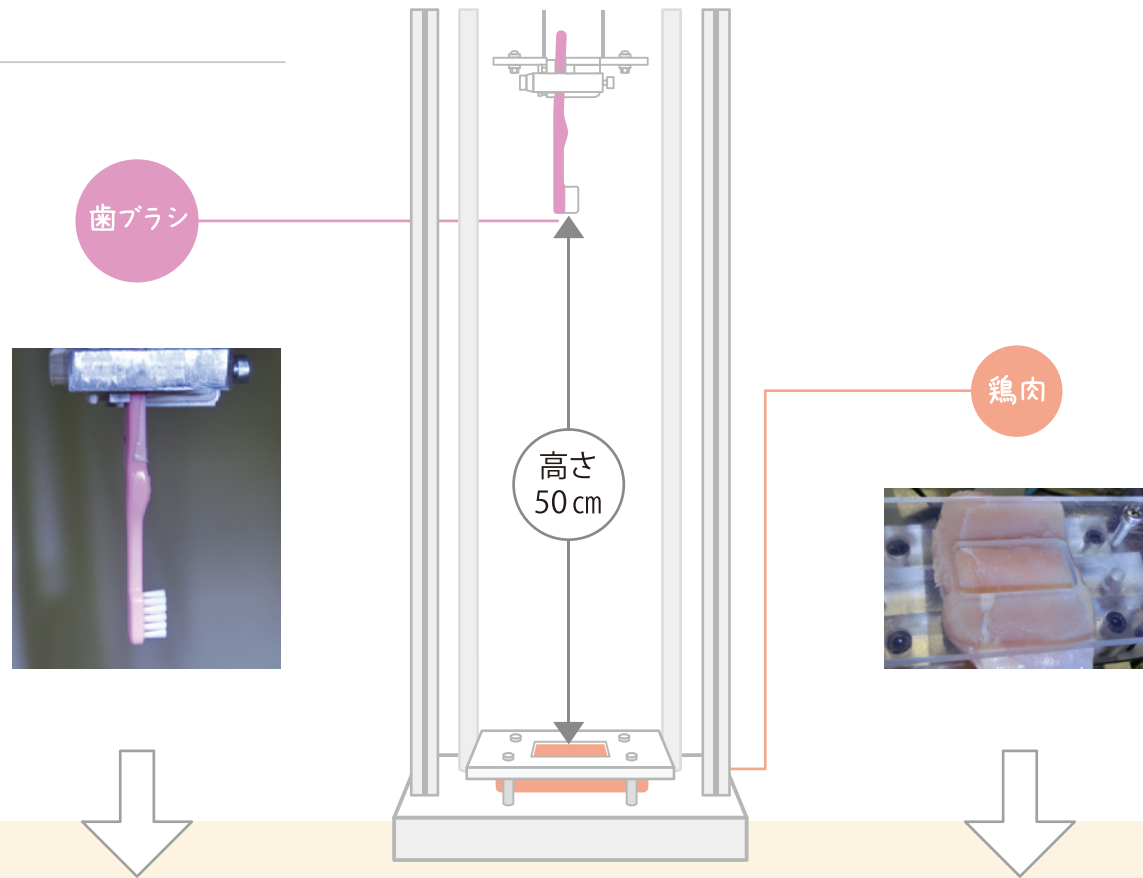


歯ブラシ事故の科学

転倒時、
歯ブラシには約 80kg 重という
大きな力がかかります

歯ブラシ事故の再現実験

産業技術総合研究所では、実験装置をつくり、歯ブラシをくわえた状態で転倒した場合、どのくらいの力がかかるのかを検証しました。具体的には、約 2.65kg (1 歳児の頭部の重さ) のおもりの先に歯ブラシを付け、高さ 50cm から落下させます。歯ブラシの下には、子どもの口腔内を想定した鶏肉を置き、落下させた時どうなるかを観察しました。

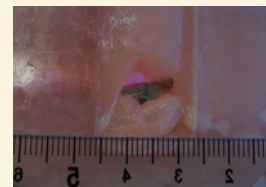


実験結果

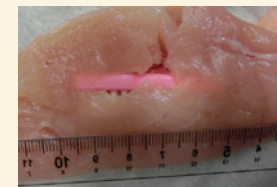
転倒時、歯ブラシには約 80kg 重という大きな力がかかることが分かりました。また、歯ブラシは折れて鶏肉に刺さっていました。



実験後の
折れた歯ブラシ



実験後の鶏肉
(表側)



実験後の鶏肉
(裏側)

歯ブラシ事故の予防

予防：座って歯みがき

歯みがきをしながら動きまわって転ぶと、
口の中や目に歯ブラシが刺さることがあります。
子どもには、座って歯みがきをさせましょう。

子どもは、
座って歯みがき



予防：事故を防ぐ歯ブラシ

歯ブラシの柄の一部が柔らかくなっていて曲がるもの、
歯ブラシの先端がのどに届かないように工夫されたものなど、
事故を防ぐ対策がとられた製品を購入して使いましょう。

柔らかく
曲がるもの



歯ブラシを刺して出血したら、医療機関を受診しましょう。



Supported by

